行政情報

Administrative Information

#02

2008ふゆトピア・フェアin千歳　SNOW with ECO
雪と仲良くすることは、地球と仲良くなることでした

北海道開発局開発監理部開発調整課

冬の暮らしと技術の情報発信イベント「ふゆトピア・フェア」が、2008ふゆトピア・フェア実行委員会の主催により2008年１月31日から２月２日の３日間、北海道の千歳市で開催されました。

本フェアでは、克雪･利雪の現状や課題について幅広く情報や意見交換を行い、雪国の未来を展望し、その実現方法について議論することを目的としています。今回は、環境問題と快適な冬の生活環境づくりをテーマとし、地球温暖化から市民レベルまで、環境に関する話題と雪国の暮らしについての意見交換や情報発信が行われました。また、期間中は、真冬日になる厳しい寒さの中、各会場は連日多くの人々で賑わい、来場者数は延べ約12,000人にもなり、冬の生活環境や環境問題に対しての関心の高さがうかがわれました。

来場する地元千歳市の中学生

●ふゆトピア シンポジウム
１月31日㈭／千歳市民文化センター
●ふゆトピア 展示会
１月31日㈭～２月２日㈯／千歳市民文化センター
●除雪機械展示・実演会
１月31日㈭～２月１日㈮／千歳市立千歳中学校グラウンド
●ふゆトピア研究発表会
２月１日㈮／ANAクラウンプラザホテル千歳

1　ふゆトピアシンポジウム

初日に開催されたふゆトピアシンポジウムでは、グローバルな視点や身近な視点から環境問題をテーマとした２つの基調講演と、環境に優しい冬のあり方をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。

基調講演１
地球温暖化でどんな世界になるのでしょうか

池田　元美 氏
北海道大学大学院地球環境科学研究院教授

池田教授は、専門的な立場から地球の過去と現在とを分析、そこから引き出される未来の姿を予測。また、現在、クローズアップされている地球温暖化の問題だけでなく、水や食糧、生物の多様性等の問題があり、もともと私たちがエネルギーを使い過ぎたり、産業活動が増大していることがこれらの原因になっていると警告。いろいろな問題が相互に絡み合っているので、一つだけ解決しようというのではなく、よく全体を見ないと解決策は見つからないとうことを伝えたいとお話しされ、「60年後、我々の孫の代にも人間が心地よく安心して住める地球であるべきです」というメッセージを発信されました。

基調講演２
北国の温暖化と変わる北海道の冬

三好　真紀 氏
（財）日本気象協会北海道支社気象予報士・防災士

三好氏は、気象予報士というお立場から、気象の視点で世界、日本における地球温暖化の影響について解説があり、地球温暖化は冬に影響を受けやすいことから、特に北日本で温暖化の影響が大きくなる傾向にあると予測。一年中融けないはずのヒマラヤの氷河が融けている事例から、目に見えて変化がわかる雪は貴重な「環境センサー」であると述べられました。また、北海道では、特に冬の省エネを心がけることが地球温暖化を防ぐ最もいい方法であると、冬の北海道エコライフの推進を提案されました。そして、子供たちの未来を守るためにも一人ひとりが日常的に意識し省エネなどを習慣にする必要があるとし、マザーテレサの言葉から「愛は言葉ではなく行動である」というメッセージを会場に発信されました。

パネルディスカッション
地球に優しい地域のとりくみ

パネルディスカッションでは、キャスター・エコライフジャーナリストで活躍されている林美香子氏をコーディネーターに、パネリストには長年雪の研究をされている北の生活館館長の秋田谷英次氏、美唄市で雪冷熱の取り組みを行っている金子幸江氏、そして、基調講演で講演された三好真紀氏、地元を代表して千歳市の山口幸太郎市長の５名で行われました。

パネリスト
秋田谷　英次 氏
NPO 法人雪氷ネットワーク理事（北の生活館館長）

秋田谷氏は、雪を考える会や雪中キャンプなどを始めとした親雪活動を先駆的に行っている雪の専門家。現在は、ご専門の雪崩研究のほか、出身地の北村で「北の生活館」をつくり、科学を用いた冬の遊びから、雪や寒さを学び、子供たちに身近な雪に親しんでもらうことを実践されています。「昔は学校の行き帰りでも雪遊びをしたものですが、今は交通事故にあう危険があることから子供が外で遊べない環境。子供のころから雪と親しむことが雪を考えるきっかけになります。時間がある僕らの年代が子供と遊ぶべき。皆さんもおじいさんになったら子供たちと遊んでください」とお話しされました。そして、雪遊び等の体験から冬は「がまん」も必要だということを学びます。大雪の予報があったときは30分早く寝て翌日早起きし、家の周りの除雪をして、長靴を履き、帽子をかぶって１つ２つ先の停留所まで歩く等の行動につながるのではないか、それによって膨大な予算が必要となる除雪の問題もなくなるのではないかと発言。「昔は当たり前だったことをするべきです」と会場へメッセージを発信されました。

パネリスト
金子　幸江 氏
美唄自然エネルギー研究会事務局

金子氏は、美唄市で10年前から雪でまちおこしをし、地域経済を活性化させようと取り組んでいます。その中心となっているのが美唄自然エネルギー研究会。金子氏は設立当初から事務局を担当しご尽力されています。活動は農産物貯蔵の利雪から始まり、今は、日本でも先駆的な取り組みとなった雪冷房をマンションをはじめとした居住空間への導入が始まっています。雪氷は平成14年に新エネルギーとして認め

られ、美唄市ではマンションのほか国内最大規模3,500トンの雪量の雪蔵工房、温泉施設など７つの雪冷房施設を稼働しています。また、2005年から多目的に雪を利用できる雪山プロジェクトも開始。今年は、雪冷房を使った氷室で、洞爺湖サミット用に選定された桜を貯蔵し、開催時期に開花させてサミット会場に飾りたいと夢を膨らませています。金子氏は、「雪氷に関して北海道は非常に優位。利雪・雪氷利用技術を発信していくことが義務であり、『雪国の特権！』です」とメッセージを発信されました。

基調講演に引き続き、三好氏からは、私たちが具体的にできる省エネ活動として、暖房効率を良くするため家族が同じ部屋で過ごす、高断熱・高気密住宅でなおかつ光と風を通す窓を多くすると照明や冷房の節約になる、食品の保存に雪や外気温を使う、フードマイレージが少ない地元の食材を選ぶ等の具体的な冬のエコライフの提案がありました。また、「子供は外で遊びましょう。外にたくさん出ることによって暖房費、CO_2も減らすことができます。一度外で楽しい思いをすると、また外で遊ぼうという気持ちになるでしょう」北海道は「冬こそ温暖化対策」というメッセージを発信されました。

パネリスト
山口　幸太郎 氏
千歳市長

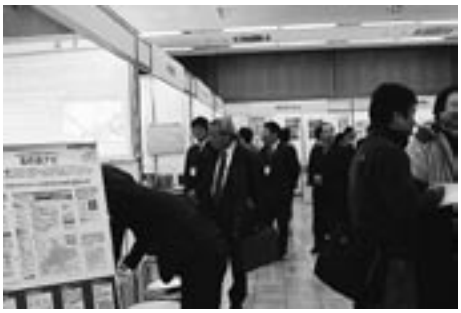
山口市長からは、千歳市に３年間で22社が立地した企業誘致の事例から、北海道の冷涼な気候を売り込みポイントとした企業誘致の可能性や、そのメリットを発信していくことの重要性が述べられました。また、「雪は資源」と考え、「雪は保水や保湿で農業に大きな役割を果たすほか、暖かい外国からのお客様への最高の観光資源です。国で洞爺湖サミットに併せて空港に降った雪を集め冷熱を循環させるクールプロジェクトを展開予定です。世界に資源としての雪が伝えられます」とメッセージを発信されました。

コーディネーター
林　美香子 氏
キャスター・エコライフジャーナリスト

最後にコーディネーターの林氏から、「北海道がリーダーシップをとりながら、環境に優しい技術や知恵を日本だけではなく、世界中に向けて発信して行きましょう」との呼びかけで終了しました。

2　ふゆトピア展示会

快適な冬の生活環境づくりのために必要な克雪・利雪技術、地球環境問題対応技術などについて、国内の企業や団体（33企業団体、北海道開発局、北海道、千歳市、㈳雪センターほか）によるブース展示を行い、雪対策技術や先進的な環境技術などが来場者の注目を集めていました。



企業・団体展示コーナー

主催者展示コーナー

3　ふゆトピア研究発表会

研究発表

２月１日に開催されたふゆトピア研究発表会では、積雪寒冷地ならではの技術や活動紹介などについて、雪とまち・地域づくり、人・環境にやさしい利雪・克雪技術、冬の暮らしを支える技術の３つのセッションに分かれて論文発表（口頭発表49編、ポスター発表20編）を行い、活発な意見交換がなされました。

パネルディスカッション

地域と協働した雪対策について考える

パネルディスカッションでは、北海道大学大学院工学研究科准教授高野伸栄氏をコーディネーター、㈱雪センター理事長酒井孝氏をアドバイザーに、札幌市建設局雪対策室室長筑田清貴氏、北海道工業大学工学部社会基盤工学科教授亀山修一氏、㈱千歳青年会議所前理事長佐藤哲也氏、㈱北海道開発技術センター研究員新谷陽子氏の４人をパネリストに、自治体で取り組まれている雪対策の現状や観光イベントなど他分野との協働の事例の紹介を通じ、地域協働による雪対策の必要性と今後のあり方について議論がなされました。

4　除雪機械展示・実演会

１月31日～２月１日の２日にわたり、隣接する千歳中学校グラウンドで開催された除雪機械展示・実演会では、23社１機関から除雪機械・装置等72台、除雪関連機器約20点が出展され、展示機械による除雪の実演や講習会などが実施され、近隣の市町村をはじめ全国各地から多数の見学者が訪れました。

また、２月１日には同会場にて、地域で活躍されている除雪ボランティアの方にハンドガイド式小型除雪機を実際に操作していただきながら操作方法を習得する「除雪機講習会」も開催され、参加者はハンドガイド式小型除雪機（Honda製（９馬力、15馬力）、和同産業製（42馬力）の３機種）などの除雪機を実際に操作して性能を確かめました。

除雪機講習会

除雪機展示会・実演会